

▶執筆 人権教育課 (市役所内線 4012)

私と母

私は、この数年で耳が聞こえにくくなり、人の会話ははっきり聞き取りにくいことがあります。特にコロナ禍からは、マスクをする方が増え、声がかもる上に口元が見えないため、さらに分かりづらくなりました。一番困るのは、電話対応です。「すみません。もう一度…」と、1回は聞き返せても、2回目はなかなか言えません。なぜなら私には一度、「もう、ええわ」と電話を切られた経験があるからです。最近では1回で聞き取ることができなかつたら、前もって耳が聞こえにくいことを伝えてから聞き返すようにしています。以来前述のようなことはありませんが、今でも電話は緊張します。

私には今年5月で90歳を迎える母が健在で、鉢植えの花の世話を日課に元気に暮らしています。しかし、母も数年前から耳が聞こえにくくなり、2度、3度と聞き返すことが多くなりました。同じことを繰り返し聞かれると、私もつ



いついライラしてしまい、「もう、ええわ」ときつく当たってしまうことがありました。私は自分が経験したつらい思いを、母にもさせてたのだと気が付きました。

令和5年度における兵庫県の高齢者虐待の報告によると、養護者による虐待が740件あったことが確認されています。虐待をした人は、被害者の息子、夫、娘、妻の順に身近な家族で88.6%を占めています。そう考えると、私もその入り口に立っていたのかもしれない。

以来、母にはゆっくりと話すように心掛け、大事なことはメモに書いて伝えていきます。母も来客があれば伝言を書いてもらったり、電話は相手の名前と連絡先を聞いたりして、用件が分かるように、できることをしてくれています。90歳になって、ますます頼りになる母です。

ふるさとの魅力再発見ーにしわき歴史探訪

丹波焼萩文壺 (黒田庄町黒田)

▼問合せ 郷土資料館 (☎235992)



丹波焼萩文壺 (郷土資料館にて展示中)



採集されたと伝わる黒田庄町黒田の「古墓」



丹波焼萩文壺は、昭和40年代に、黒田庄町黒田にある莊嚴寺の元住職である桂儀一氏が、莊嚴寺の西側、谷の北側山裾に広がる中近世墓群(地元では古墓と呼ばれる)で採集したものです。この場所は後に「黒田北山遺跡」として発掘調査が行われ、中世墓の蔵骨器として使われた、瀬戸焼の四耳壺や土師器の土鍋が見つかっています。このことから、丹波焼も蔵骨器として使われたと考えられます。胴部に描かれる萩の文様は、丹波篠山市で見つかった三本峠北窯跡出土資料に描かれる筆致と同じであり、この同窯で焼かれた可能性が高く、13世紀のものと考えられます。丹波焼の歴史をひもとく上で非常に貴重な資料です。

市長からの手紙

ー西脇を元気に!!ー



西脇市出身で日本国際博覧会協会の会長を務める十倉雅和経団連会長(右)

#きたぞ、大阪・関西万博! 4月13日から2025大阪・関西万博が始まりました。1970年にアジア初の開催となった大阪万博から55年ぶりの開催。当時からわくわくして見に行つたことを覚えていますが、今回もどんな出展があるかとても興味深いです。特に今回の万博は、運営母体の日本国際博覧会協会会長が西脇市出身の十倉雅和経団連会長ということもあり、開催時には、ぜひとも西脇市も何かで出展したいと考えていたところ、兵庫県の催事「ひ



西脇市長 片山象三

ようごフェイールドパピリオンフェスティバル2025」に西脇市、加東市、多可町での出展が決まりました。そして何と!初日の5月26日には、オープニングイベントとして西脇高校生による自作衣装の播州織ファッションショーが実施されることとなりました。衣装は万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」のもと、世界の課題である環境、人権、SDGsを意識した新たな提案を考えさせてくれました。230年以上前に京都・西陣から伝わった伝統と最新の技術で織りなす播州織が、世界の人々が集まる万博会場で地元の高校生により披露されることは、とても誇らしく、うれしく思います。また、市内の「ブレイン」や霧の「いけうち」などの出展も大変栄誉なことです。これからも未来に向けて、若い方々が西脇市の伝統をつないでくれることを期待します。

みんなでまちづくりー市民の皆さんのまちづくり活動ー 楽しみながら地域課題について考えよう

~heso city club (ヘソシティクラブ) の紹介~

ヘソシティクラブは、兵庫県北播磨県民局がJR加古川線(西脇市駅~谷川駅間)利用促進・活性化事業として実施する「わが町考え隊事業」により、令和5年9月に発足しました。“ユース世代が西脇市を楽しみ、気づき考え、愛着が沸く”をコンセプトとしたプロジェクトを展開しています。



今年2月にはJR加古川線や地域課題について意見交換を行うイベント「マルトリエ」を開催し、未来について考えるきっかけとなりました。今後も地域住民が思いを共有できる場を提供し、より良い未来をつくっていこうと奮闘しています。



西脇の自然 614

ササユリ

ユリ科



日本特産のユリで名前の由来は葉の形がササの葉に似ていることからきています。花の色は薄いピンクや地方によっては白もあります。

その姿やほのかな香りは清楚な女性を連想させます。「古事記」や「万葉集」にも書かれており、昔から愛された日本を代表するユリといえます。

この地方では「山百合」ともいわれ、生け花にも多く用いられました。関東では見ることができない花で、この地方にたくさんあった自生地も、里山の荒廃とともに今ではほとんど無くなり、一部の地域でわずかに残っているような状況です。

栽培が大変難しいので、必要もなく持ち帰らないようにしましょう。

【西脇市動植物生態調査研究グループ】